

## 第23回鳥取県教育審議会の概要について

- 1 日 時 令和3年2月17日（水）午前10時～正午
- 2 場 所 白兔会館 飛翔の間
- 3 出席者 教育審議会委員（18名）
- 4 概 要（○：審議会委員からの意見、●事務局からの説明）
  - キャリアは思いがけない出来事や出会いなどに左右されるものであり、偶然の好機を逃さない力が大事である。子どもたちが目の前にある課題に夢中になって取り組むことで力が付いていくと思う。
  - 職業人ではなくて更に経営者として第一次産業を支えていくために、高校で経営学を学べたらよいのではないか。
  - 中山間地域の小規模校については、ただ単に少人数指導に活路を見出すという観点だけではなく、設置者の壁を超えて、県と高校がある地元の自治体が連携協働を図りながら町づくり・人づくりをやっていくという観点を議論の中で共有してほしい。
  - 高等学校に求められる役割が増えつつある中で、教員を中心にしつつも、いわゆる教職外の職種の人たちを生かしながら多様な教育課題に向き合うため、教育の担い手の多様化をどうやって考えていくのかという視点を持ってほしい。一方で、働き方改革による業務改善の観点も必要である。
  - SSH等の特色ある取組を一過性の事業ではなく中学校の段階で体験できたらと考えているところであり、カリキュラムや授業展開、様々な面で中高一貫ということが生きてくるのではないかと考えているため、県立学校の中高一貫教育について検討をしていただきたい。
  - 変化が速い時代となっているため、長期的に考えることと、即実行できることとの考え方やプロジェクトを分けていただいて、まず気がついたことからやれることはどんどん進めて、鳥取県内の子どもたちのために取り組んでいただきたい。
  - 鳥取県全体を持続させていくためには、今の子どもたちが生まれた町をどうしていきたいのかということをしっかり考えていく力を小中高とかけて育てていかなければならない。ふるさとキャリア教育を中心にしっかりと取り組み、地域との協働を大事にしながら、地域の力をいかに使って地域の方と一緒に子どもたちを育てていくというそういったスタンスが求められる。
  - 愛郷心は地域の方々とのいろんな接点の中で、地域行事・伝統行事等に参加して初めて培われるが高校生は公民館等でいろんな企画をしても参加されない傾向がある。小中学校のいろんな機会でも培われた愛郷心を高校で立ち切ってしまうのは、非常に残念であるため、高校もふるさとキャリアの関連として地域行事に参加できるような内容を生徒たちに後押しするような環境を作してほしい。
  - 社会に出たときに人としての良さや道徳心、人を大切にできる心を持って人と接しながら地域社会の一員として生活していくために、やはり小中学校での道徳教育に力を入れていただきたい。
  - 中山間地では存続の危機にある高校もあると思うが、地域と連動したような有機的な関わりの中で子どもを育てていくことをお願いしたい。また、学校そのものが魅力であってほしいし、中学生が高校を選ぶときにここに行けば素晴らしい体験ができるといったメニューを用意し、子どもたちに魅力を発信してほしい。併せて県外へも魅力を発信してほしい。